

## 「結紮王」を開催して

琉球大学病院 第二外科 比嘉 章太郎



2022年2月27日、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)エチコン事業部協賛により、沖縄県で従事する初期研修医を対象に「結紮王」を琉球大学医学部構内にあるおきなわクリニカルシミュレーションセンターで開催しました。このコンテストは、外科医が不足する中、研修医の技術や意識向上を目的に琉球大学医学部が県内で初めて開いたものです。

県内6つの病院から研修医15人が出場し、外科手術での基本的な技術の一つ「結紮」の腕前を「血管結紮」、「筋膜縫合」、「真皮縫合」の3種目で競いました。そのうち「真皮縫合」では豚皮に10cm長の切開をおき、腹部の真皮縫合をイメージして縫合を行い、その整容性や正確性を評価しました。研修医の先生方が日頃修練を積んだ成果を存分に発揮してくれました。審査の結果、県立中部病院の渡邊雄太先生が初代「結紮王」に輝きました。県内でも外科医の不足が深刻化しており、我々はこの様な機会を通して研修医が外科を目指すきっかけにつながればと考えています。

今回参加して下さった15名の研修医を対象にアンケートを行いました。将来志望する科は何かと質問したところ73%(11名)が外科(重複回答で形成外科、耳鼻科を含む)または心臓血管外科と回答しました。外科に対するイメージは、「楽しい」「最後の砦」など肯定的な意見もある一方、外科志望の研修医においても外科の仕事は「きつい」「忙しい」などの意見がみられました。

沖縄県で外科志望の医師が少なくなっていることを知っているかという質問に対しては47%(7名)が知らないと回答しました。外科志望

の医師を増やすためにはどうしたらよいかという質問に対しては、47%(7名)「ワークライフバランスの見直し」と回答しました。また「学生時代からの勧誘」「丁寧な教育体制」「病院間の垣根を超えた指導体制」などのほか、「今回のようなイベントの開催」で興味が持てるのではないかという意見もみられました。参加者全員から今回のイベントに参加してよかったとの回答が得られており、今後も継続して開催していきたいと思っています。

皆さんは小児科医や産婦人科医不足に関して耳にしたことがあると思います。では「外科医不足」はどうでしょうか?医学部定員増加の影響もあり医師全体の数は年々増加していますが、診療科別医師数では外科医の数は20年前と変わっておりません<sup>1)</sup>。加えて40歳未満の若手外科医は約35%しかおらず、外科医の高齢化も顕著になっています。

さらに2024年からは働き方改革により労働時間の制限が始まります。これまでの医療体制を維持するためには、外科を志す医師の増加が必要です。沖縄県において2016年には297人の外科医がいますが、2024年には必要医師数は381人と推定されています<sup>2)</sup>。計算上は毎年10人以上の外科専攻医が必要となりますが、現実はこちらを下回っています。このままでは現在、検査・手術に至るまで1週間程度であったものが、手術を受けるまでに何か月待ち、あるいは内地まで手術を受けに行かなければならないという事にもなりかねません。それを解決するためには外科医を増やすことが必要であり、外科医を目指す学生・初期研修医が増える取り組みが必要であることは明らかです。

そもそもなぜ初期臨床研修医から外科が敬遠されてしまうのでしょうか？外科はいわゆる3K＝「きつい、厳しい、汚い」と呼ばれ、さらには「帰れない、給料が安い」といくつかのKがつくような職場のイメージが持たれています。以前のようにやりがいや根性論だけでは外科医の獲得は困難です。今回のアンケートでも明らかになったように、外科志望の学生・初期研修医を増やすためには「ワークライフバランス」が重要であり、若い世代の「学びやすさ・働きやすさ」を重要視しなくてはならないのです。そのために我々に何ができるか、各病院で考えていく必要があります。

ただし「ワークライフバランス」を重視するあまり、研修が疎かになっては本末転倒です。諸先輩方の研修時代に比べると、現在の研修はずいぶん楽になったと感じられると思いますが、今以上に労働環境の改善が叫ばれている世の中ですので、限られた労働時間の中で若い世代にどれだけの事を伝授していけるかを考える

必要があります。そうすることで10年後、20年後の沖縄の外科医療を安定させることができるのです。沖縄県全体で協力しあい、若い外科医を育てる仕組みが今こそ必要です。

またこれは大学病院の責務ですが、外科医を目指す学生が増えてくれるような取り組みも行っていかなければなりません。「結紮王」に参加してくださった研修医の先生方からは、参加して良かったと肯定的な意見が多くみられました。そこで私からの提案ですが、「結紮王」のような企画を県医学会総会時に開催し、県医師会全体で盛り上げてみてはいかがでしょうか？

- 1) 森正樹, 他. 外科医の働き方改革に関する課題と必要な取組. 第9回 医師の働き方改革に関する検討会. <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000349216.pdf> (2022年6月27日閲覧)
- 2) 都道府県別診療科ごとの将来必要な医師数の見通し(たたき台). 医療従事者の需給に関する検討会, 第29回 医師需給分科会. <https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/000483701.pdf> (2022年6月27日閲覧)



集合写真